

○此花区 新将来ビジョン“元気・笑顔・区民の輪”の検討

項目	防災	防犯	子ども	福祉
項目別ビジョン	日頃から区民一人ひとりが災害に対する備えを行い、地震や津波が発生した際には区民全員が安全に避難できるまち。	見守り等の取組が日常化し、犯罪が少なく安心して生活できるまち。	子育てがしやすく、子どもの生活習慣や学習習慣が確立され、未来へ向けた子ども達の育成ができるまち。	声かけ・見守り・助け合いが日常化し、笑顔で繋がりがいきいきと暮らせるまち。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>海拔0m以下の地域は大規模浸水。</u> ・<u>海溝型地震（津波）と直下型地震は、避難先が違う。</u> ・津波による水が引かない期間など確定していない事項が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども声かけ事案や街頭犯罪の発生に対する抑止のため、「子ども見守り隊」や青色防犯パトロールによる子どもの登下校の見守りをやっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・此花区の児童・生徒の<u>学力は全国平均や大阪府平均と比べて低い。</u> ・スマホの長時間使用など、<u>基本的な生活習慣上の問題</u>が発生している。 ・保護者として必要な認識や自覚がなく子育て支援につながらない家庭がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りタイのボランティアをはじめ、<u>地域の福祉を支えている方の負担が増えている。</u> ・介護保険を持続可能な制度とするため要支援を予防給付から、<u>住民主体のサービスを含む総合事業への移行が進められている。</u>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・区民一人ひとりが事前の備えを行い、適切に行動ができること。 ・地震の型に応じた避難行動ができるよう必要な情報の伝達。 ・想定外の被害が起こりうることを区民に伝えておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども声かけ事案や街頭犯罪に対して、日常生活における安心感をもってもらう必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上をめざし、<u>学習習慣を確立する必要がある。</u> ・子ども達に望ましい<u>基本的な生活習慣</u>を身に付けさせることが必要である。 ・保護者が子どもの教育に何が必要かを認識することや、模範となる大人の姿を示す取組が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者、子育て世帯等が安心して暮らしていけるまちにするためには、近隣の住民と日常的な関係を築き、生活課題の発見や早期の対応を行うことができる<u>地域のアンテナ役、つなぎ役の担い手が必要である。</u>
解決された状態	<ul style="list-style-type: none"> ・区民一人ひとりが<u>事前の備え</u>を行い、適切に行動できる状態。 ・区民一人ひとりが、<u>地震の型に応じた適切な避難行動</u>ができる状態。 ・区民一人ひとりが、想定外の被害に対して柔軟に対応できる状態。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>子ども声かけ事案や街頭犯罪防止の区民主体の取組</u>が継続的に行われ、<u>区民が安心して日常生活を送っている状態。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>学習習慣が確立し、学力が向上している状態。</u> ・子ども達が、望ましい<u>基本的な生活習慣</u>を身に付けている状態。 ・保護者が子どもの教育に何が必要かを認識している状態。 ・地域の大人が子どもたちとその保護者に模範を示すことができている状態。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>見守りタイ事業</u>」を地域住民が主体的に取組めるような<u>地域活動事業へと移行し</u>、地域担当チームを中心に支援していく。
平成31年度までの計画	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の<u>持出袋や食料等備蓄の重要性</u>についての啓発。 ・（海溝型地震）区民一人ひとりが、<u>所定の時間内に避難</u>できるよう、<u>区内一斉津波避難訓練</u>を実施。 ・（直下型地震）<u>災害時避難所を開設し、住民の受入れ</u>ができるよう訓練を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区民が安心感を感じるよう「<u>24区内で犯罪発生件数最少</u>」等について区民に周知。 ・<u>子ども見守りを実施し</u>、子ども被害件数減少をめざす。 ・<u>青色防犯パトロール車両を2台に増台しパトロールを強化。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上へ向け児童・生徒の指導を適切に行うための<u>ツールの導入。</u> ・家庭学習の充実を図るための取組 ・望ましい基本的な生活習慣の確立などに向け「<u>保護者向け講座</u>」の開催。 ・子どもたちとその保護者に模範となる大人の姿を提示する取組。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>見守りタイ事業</u>」を地域住民が主体的に取組めるような<u>地域活動事業へと移行し</u>、地域担当チームを中心に支援していく。
平成29年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・非常持出袋や家庭での食料等の備蓄について、町会単位等の出前講座で啓発を強化。 ・区民一人ひとりに避難先を周知したうえで、津波避難訓練を実施。 ・自主防災組織による避難所開設訓練を実施。 ・津波浸水区域外への避難に向けた取組の継続。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども見守りを実施し、子ども被害件数減少をめざす。 ・2台の青色防犯パトロール車両を活用。 ・区民が安心感を感じるよう「<u>24区内で犯罪発生件数最少</u>」等について区民に周知。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学習に関する<u>弱み・強みを知るため分析機能付単元別テスト</u>などを実施し、その結果を教員が<u>個々の児童・生徒の指導に活用</u>するとともに、<u>保護者にも情報提供</u>を行うことにより<u>家庭学習の充実</u>を図る。 ・青少年育成推進会議と連携し、望ましい<u>基本的な生活習慣や学習習慣の確立</u>に向け、「<u>保護者向け講座</u>」の内容を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアリーダーの機能強化。 ・リーダー業務マニュアル（リーダーが困った時集付き）による活動の標準化。 ・地域の中での見守り活動の必要性と重要性の理解のため<u>各地域への説明・意見交換の実施。</u>

項目	健康	環境
ビジョン	区民がそれぞれ健康づくりの取組を行い健康やかに暮らせるまち。	思いやりのある、住み心地のよいまち、このはな。 — 人と人がふれあう、きれいで気持ちのよいまち。大人も子どもも、楽しく環境を学びあうまち。明るく華やかで思いが詰まったまち
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・此花区の健康寿命(※)は、国や大阪府に比べ短い状態にある。 〔(※)健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと〕 ・健康づくりの取組はさまざまなものが行われているが、メンバーに固定化傾向が見られ、広がりを見せていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域において早朝清掃等活動が行われているが、「まちがきれい」と感じている区民の割合は少ない。 ・地域社会との関係性が薄い層でも「自分にメリットがあるもの」には興味がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康状態に関心を持つ区民の割合は高いが、<u>実際の取組を行っている人の割合は低いので、様々な年齢層をターゲットにライフステージにあわせた健康づくりの取組が必要。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や企業が実施している清掃活動等の<u>情報発信が必要。</u> ・「ごみのポイ捨てやペットのフンの不始末に関するマナー」の改善等が必要。 ・若い世帯で「子どもが遊べる・学べる環境」を求める声がある。
解決された状態	<ul style="list-style-type: none"> ・区民が<u>それぞれのライフステージにあわせた健康づくりの取組</u>を行っている状態。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層、子育て層など誰もが環境活動に<u>参加しやすい雰囲気やきっかけのある状態。</u> ・環境に対する自覚を持ってマナーやルールを守り、まちがきれいな状態。 ・環境について、<u>継続してみんなで学び、意識しあえる状態。</u>
平成31年度までの計画	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>取り組みやすい健康の定義により、健康づくりの取組メニューを作成し周知する。</u> ・区民ひとりひとりが<u>自分のライフステージにあった健康づくりメニューを作成できるようなカリキュラムを作成し周知する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層や子育て層に環境活動に関心を持って参加してもらえるような<u>アイデア募集と実現にむけた支援を行う。</u> ・将来を担う子ども達に環境に関する関心を持たせる<u>環境学習講座</u>の開催。
平成29年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりの取組を区民がしやすい「健康」の定義の此花区バージョンの策定 ・健康づくり取り組みメニューの検討 ・健康づくりにかかる広報紙増ページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や企業と協力した一斉清掃等。 ・地域や企業等が行っている清掃活動について区が作成した「<u>お掃除マップ</u>」を充実させることにより、区民等に周知し、清掃活動の輪を広げる。 ・区内中学生を対象とした「<u>学校では行えない環境学習講座</u>」の開催。 ・学校園・公共施設などをはじめ、区民の手によって管理されている花壇(ふれあい花壇等)に対して花苗を提供し、<u>花と緑あふれるまち</u>をめざす。

項目	まちづくり（地域活性化）	まちづくり（担い手確保）	まちづくり（ハードウェア）	区役所
ビジョン	元気な姿と笑顔にあふれ地域のコミュニケーションも盛んで区民がまちに愛着を持っているまち。			区民に身近な行政機関として区民の意見を区政に反映し、市民満足度の高いサービスを提供する区役所。
現状	<ul style="list-style-type: none"> 地域の住民相互の「つながり」や「きずな」は大切であると感じている人は多いが、実際に地域活動に参加している人は少ない。 担い手の高齢化や若年層・新住民の参画が難しい。 地域活動に参画しやすい環境が整っていると感じている区民の割合が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動は、地域活動団体の役員によって担われており、新たな担い手が不足している状況である。 50歳代は職業生活の最盛期であり、60歳代は年金受給年齢の引上げに伴い稼働年齢層となっていることから、地域活動の専任的な担い手となるのは困難な状況が今後も続く。 	<ul style="list-style-type: none"> 正蓮寺川公園（仮称。以下同様）の千鳥橋から上流の一部区間が来春、供用開始。 舞洲にセレッソ大阪、大阪エヴェッサ、オリックス球団の活動拠点。 工場が撤退した跡地が遊休地となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 区庁舎は地域防災の拠点であるものの、既に築50年以上が経過している。 津波による浸水で書類等の流出が懸念される。 区役所職員には、担当業務における正確性・迅速性の確保とともに適切な接遇が求められている。 地域の課題等を解決してくためには区役所職員の企画・立案能力を高める必要がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 区民が日ごろから隣近所で互いに「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支えあい」を行う豊かな地域コミュニティの醸成を図るためには、<u>地域住民が自分たちの住むまちの課題を具体的に捉えている必要がある。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の公益活動等の担い手を確保するには、<u>地域課題を解決するための取組に、住民個人が、自分のできることを、できる時に、できる範囲で関わられるようにする必要がある。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>JR西九条駅から正蓮寺川公園への動線の景観を整備する必要がある。</u> 夢洲の開発が区民生活に悪影響を与えないよう、関係先に働きかけていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 津波による浸水後も、区庁舎は地域防災の拠点としての機能維持が求められる。 セキュリティの高い建物、設備である必要がある。 法令等の知識と業務処理スキルを兼ね備えた職員、新たな施策を企画する力のある職員の育成が必要である。
解決された状態	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民が、自分たちの住むまちの課題を具体的に把握し、解決に向けた取組を行っている状態。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな担い手が、<u>地域課題について、自分のできることをできる範囲で取り組み、地域実情に合わせた解決が図られている状態。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>JR西九条駅から正蓮寺川公園への動線の景観の整備が図られている状態。</u> 夢洲の開発が区民生活に悪影響を与えないよう進められている状態。 	<ul style="list-style-type: none"> 区庁舎が、<u>地震災害や津波による浸水被害に耐えうる建物</u>となっており、平常時においても<u>セキュリティの高い建物、設備</u>となっている状態。 業務の正確性、迅速性が高まっている状態。 職員の施策の企画・立案にかかるスキルを高めるための人材育成が図られている状態。
平成31年度までの計画	<ul style="list-style-type: none"> <u>地域の課題の発見と解決策の検討にかかる区役所職員による支援の強化。</u> 「声かけ」「見守り」「助け合い」「支えあい」のきっかけとなる行事やイベントを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢層が地域活動に参画できるようなルール作りの支援。 やる気と能力のある新たな担い手確保への支援。 新たな担い手の参画促進に向けたICTを活用した仕組みづくり。 	<ul style="list-style-type: none"> 西九条駅から正蓮寺川公園への景観をテーマに公募したアイデアを基に、<u>景観設計コンペ（模型やパースを公募）。</u>コンペの成果を景観整備に活用。 夢洲の開発に関して区民生活の観点から働きかけを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 浸水対策としての庁舎内レイアウトの改善。 休日・夜間の執務スペースの施錠や個人情報記載書類の適正管理 業務の正確性・迅速性を高めるとともに、業務スキルの向上をめざす職員研修を実施する。 庁内横断的プロジェクト等を活用しながら、課題の解決、職員の企画力向上を図る。
平成29年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 区役所内に組織横断的な地域担当チームを編成。 地域活動協議会の活動支援を継続。 コミュニティ育成事業を継続。 	<ul style="list-style-type: none"> 区役所内に組織横断的な地域担当チームを編成。 地域における課題解決のコーディネート等について支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 西九条駅から正蓮寺川公園への景観をテーマにしたアイデア公募。 夢洲に関する情報収集 	同上